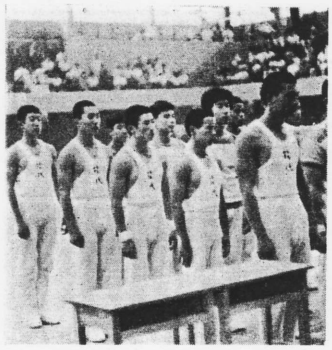
校友時報

昭和38年10月17日
編集人兼発行所
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝印刷堂

体操 見事全国優勝!! 野球部は甲子園大会へ

◇体操部、野球部が晴れの舞台で見事な活躍をし、能代高校の伝統をいっそう輝かしいものにした。◇
◇体操部は去る八月十一日から四日間に亘って青森県立体育館で行われた『第十五回全日本高等学校体操選手権大会』に出場。大会前の予想では優勝候補の筆頭にあげられ固くなるのではないかと心配されたが、本校選手は落ち着いた演技を見せ、通算十二度目の優勝を遂げた。◇
◇また野球部も去る八月九日からの『第四十五回全国高校野球選手権大会』に秋田県代表として出場し、学校関係者、市民の熱烈な声援に応えた。◇



開会式の本校選手

十二度目の優勝成る
体操部真価を発揮

青森県立体育館で開かれた全国高一回、九回、十回、十一回、十二回校体操選手権大会は八月十四日、四日間にわたって行われた大会の幕をとじた。本校は昨年高知に優勝をうばわれていただけに選手の大会に対する意気ごみはたいへんなものであった。この〝必勝〟の信念が反映してか、各種目にめざましい活躍を見せみごと十二回目の優勝という偉業をなしとげた。

過去の優勝の記録を辿ってみると昭和二十二年の第一回全日本高等学校体操選手権大会に優勝、それ以来二回、三回、四回、七回、八回、十三回の各大会に優勝している。昨年は惜しくも八回連続優勝の夢がとだえたが、今回再び優勝杯をとりもどしたわけである。また個人総合においても本校は、大山三位、八柳四位、三沢六位と上位を独占するなど〝体操能代高校〟の真価を発揮した。この大会での優勝は〝予想通り〟といわれればそれまでだが、一位になったことだが、別に優勝をねらう気はない。なにしろウチばかり勝つても悪いからね。（いかにも自信ありげに話されていた）

三田先生（体操部監督）の話

優勝できてこんなにうれしいことはない。特に昨年は優勝に逃しているだけに関係者の喜びもひとしおだ。今回は青森県立体育館で行なわれたわけだが、設備、広さ気候も適当だったので選手たちはのびのびと演技できた。また優勝をモンゼン意識しないで戦ったことも勝因だろう。今の一二年生をふくめて来年も優勝を！というところだが、別に優勝をねらう気はない。なにしろウチばかり勝つても悪いからね。（いかにも自信ありげに話されていた）

開会式 堂々の行進す
硬式野球部

今年で第四十五回目を迎え、八月九日の開会式で幕を開けた〝全国高校野球選手権大会〟は各都道府県代表四十八校の間で熱戦をくりひろげ同一十日無事終了した。

なおこの試合に先立って行なわれた入場式は甲子園球場で行なわれ本校は四十五番目に入場。スタンドの盛んな拍手をうけ堂々と行進した。

結局今大会は、大阪代表明星の初優勝、幕を閉じたわけであるが、本校は、一回戦長浜北戦に楽勝、二回戦惜しくも岡山東に敗れはたが、三十四年間先輩たちのなしえなかった〝甲子園大会出場〟という大偉業を成し遂げた。

小笠原先生（野球部部長）の話

最初に、この度の甲子園大会出場の際何かと野球部のために援助声援してくれた方々にお礼を言いたい。おかげで選手たちも力づけられ思いっきりプレーできたようだ。あちら（大阪）では選手の体調に気を使った。旅館の方でも食物なんかにたいへん注意を払ってくれたようでその点助かった。

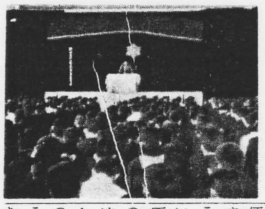
大会では第二戦の岡山東に敗れてしまったが、第一戦長浜北戦のみなさんは満足してくれたと思う。とにかく今回は監督はじめ選手たち全員よくがんばった。来年もまたできればこの甲子園大会に出場したい。

スポットライト

〝本日開店。写真焼き付け料二割引きで御引き受け致します〟と先頃営業を始めたのは写真部。がめさが観客をひきつけたが、中でも昨年は新鮮味がないというので行なわなかったルームデコレーションの評判がよかった。しかし校内の通路がはっきりしていなかったので入場者が素通りして行くということもあり、企画部細間の大高先生は「今年は夏休み中に野球部の甲子園出場がありどうかと思っていたが、生徒会ではうすても行なうという強硬な態度で望みその会やグループ活躍だった。そのため数が少なかったのにもかかわらず例年よりステレオコンハンディキャップを乗り越えての活躍が目立っていたほか生徒の活動が活発で徹夜した者もかなりいたようだ。そういう活躍が実ったのか、入場者は近年に見られない数で盛況だった。

反省としては第一日目に音楽、ブラバン、演劇、講演会など催しものがかたよったこと、来賓に対する案内係がいなかったことなどで次回は改めたい。全体的に見て今回は生徒がよくまとまり活発だったことが収穫である」と話されていた。

【写真は講演会場】



生徒の自主性目立つ
第4回能高祭

第四回能高祭は全校生徒の期待のうちに始まり、好評の中に二日間の全日程を終えた。昨年の能高祭があまりよくなかっただけに今年の開催が心配されていたが、それをはね返しての能高祭だった。今回は、特に同好会やグループの活躍が目立っていたほか生徒の活動が活発で徹夜した者もかなりいたようだ。そういう活躍ぶりが観客をひきつけたが、中でも昨年は新鮮味がないというので行なわなかったルームデコレーションの評判がよかった。しかし校内の通路がはっきりしていなかったので入場者が素通りして行くということもあり、企画部細間の大高先生は「今年は夏休み中に野球部の甲子園出場がありどうかと思っていたが、生徒会ではうすても行なうという強硬な態度で望みその会やグループ活躍だった。そのため数が少なかったのにもかかわらず例年よりステレオコンハンディキャップを乗り越えての活躍が目立っていたほか生徒の活動が活発で徹夜した者もかなりいたようだ。そういう活躍が実ったのか、入場者は近年に見られない数で盛況だった。

反省としては第一日目に音楽、ブラバン、演劇、講演会など催しものがかたよったこと、来賓に対する案内係がいなかったことなどで次回は改めたい。全体的に見て今回は生徒がよくまとまり活発だったことが収穫である」と話されていた。

【写真は講演会場】

三点
爆発狂『草加次郎』の出現は一時はどうなるものかと一抹の不安を感じさせた▼彼がなぜこのような大事件をひきおこしたのか。彼が恵まれない環境で育ってきたか、またはある時期から失意の生活をおくってきたものであり、たまたま幼稚ではあるが時限爆弾をつくるだけの技術と環境をもったことが爆発事件に結びついたということは容易に想像される。そしてまた、この爆発ムードに刺激され、それに便乗しようとする者や彼を英雄視する者が現われた事が彼をいっそうおごかにさせたかも知れない▼しかし、ここで考えたい事は原因と思われる憐まれない環境への反発、不満をなぜ爆発という方法で打ち消そうとしたかということである。もし、彼が爆破した後の事、罪もない人々への危害ということを冷静に考えたなら、こんな事件は起こさなかったはずだ。

先日の東京の地下鉄京橋駅での爆発。そして相つぐ芸能人への脅迫と、姿なき爆発狂『草加次郎』の出現は一時はどうなるものかと一抹の不安を感じさせた▼彼がなぜこのような大事件をひきおこしたのか。彼が恵まれない環境で育ってきたか、またはある時期から失意の生活をおくってきたものであり、たまたま幼稚ではあるが時限爆弾をつくるだけの技術と環境をもったことが爆発事件に結びついたということは容易に想像される。そしてまた、この爆発ムードに刺激され、それに便乗しようとする者や彼を英雄視する者が現われた事が彼をいっそうおごかにさせたかも知れない▼しかし、ここで考えたい事は原因と思われる憐まれない環境への反発、不満をなぜ爆発という方法で打ち消そうとしたかということである。もし、彼が爆破した後の事、罪もない人々への危害ということを冷静に考えたなら、こんな事件は起こさなかったはずだ。

新聞は 小さな善意の 大きな味方
—— 能高新聞部 ——

〝文化の秋〟を 信用ある文具で
学生の店
キムラヤ
畠町 二一五五三五

時評 タバコ

二学期も半ばを過ぎると、毎年のことながら、補導部、学級担任を悩ませる事件が起きてくる。三年生は、進学、就職に一応のめどがつき、二年生は、やっと板についた高校生活には、もう一本芯（しん）を通したい時、ひょんなきっかけで、方向を間違えた病を知らせないし、田崎ガン研所長がこれに倒れていることでも分かる。

昨年、英国医師協会の報告でいろいろの角度からタバコの罪状があばかれたが、中でも肺ガンとの関係でセンセーションをまきおこしたのは記憶新しい。同協会がまた次のような報告をしている。

「イギリスの国家級選手一七二人の中一三四人は全然すわない。現在親しんでいる三人は例外なく十歳代で喫煙の習慣をおぼえ、うち一七人はやめようと試みて、しかも失敗している」（朝日ジャーナル）

ガンの恐しさは、愚者に決してその病名を知らせないし、田崎ガン研所長がこれに倒れていることでも分かる。

タバコが体力を十分発揮することと喫煙が両立しないこと、厳格な自律生活に慣れている各国の国際級の選手でも節制はむずかしいというこの統計はもっと身近かなものとして受けとめることができるのではない。

ガンの恐しさは、愚者に決してその病名を知らせないし、田崎ガン研所長がこれに倒れていることでも分かる。

昨年、英国医師協会の報告でいろいろの角度からタバコの罪状があばかれたが、中でも肺ガンとの関係でセンセーションをまきおこしたのは記憶新しい。同協会がまた次のような報告をしている。

「イギリスの国家級選手一七二人の中一三四人は全然すわない。現在親しんでいる三人は例外なく十歳代で喫煙の習慣をおぼえ、うち一七人はやめようと試みて、しかも失敗している」（朝日ジャーナル）